



県歯科医師連盟評議員

鈴木 龍

ハインリッヒの法則は、一件の重大災害の裏には二十九件のかすり傷



程度の軽災害があり、その裏にはけがはないがヒヤツとした二百件の体験があるという。米国のハインリッヒ氏が分析した労働災害の発生確率の法則で、医療にも応用されている。

二〇〇七年に起きた八重洲インプラント死亡事故は、先ごろ事件として歯科医師が起訴されました。何度も大きく報道されたにもかかわらず、正

□□ 16 □□

専門機関設立し分析を

確な情報が一般開示されず、今後の予防策もとられていません。こうした事例では、まず情報開示を行い、死亡事故以外の多くの症例を、ハインリッヒの法則に従って分析することが必要不可欠です。事故は偶発だったのか、必然だったのか、立場の違うより多くの意見による分析と方策は医療という専門性の高い分野では重要です。

インプラントによる死亡事故の原因は、下顎舌側の動脈損傷による窒息がほとんどです。しかしその部位の骨は非常に厚く、よほど不適切な手術でないと動脈損傷は起こりません。報道から、術者の年齢と過剰と思える手術件数には危険性を感じます。

医療事故を専門に扱う新しい専門機関を立ち上げ機能させる必要があります。手術の実績を前面に打ち出す歯科医師こそ医療安全の立場から率先して、そうした機関に多くの症例を分析してもらい、評価を受ける必要があります。